

令和 8 年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進実施計画書

尾道市立瀬戸田中学校 校長 佐野 元章

1 学校経営構想 （別紙 2）

学校経営目標

職員が「笑顔」で生徒の前に立てる学校

スクールミッション

地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展

目指す児童生徒像

- 一 人を思いやるあたたかい心をもった生徒
- 一 正しい判断ができる生徒
- 一 何事も最後まで実行できる生徒
- 一 体力づくりや健康に努める生徒
- 一 感謝の心をもった生徒
- 一 美しいものに感動できる生徒
- 一 郷土を愛する心をもった生徒

2 教育研究構想 （別紙 3）

3 研究の概要

（1）研究主題・副題

主体的に学び続ける生徒の育成

～「探究型の学び」を用いた単元の開発（授業デザイン）をとおして～

（2）研究主題の設定理由

昨年度は研究について全教員で見直しを図り、「私たち教員の願い」として「主体性」「わかる・できる」「協調・協働・自治」というキーワードを全員の共通了解として設定することができた。

そこで授業においては特に「主体性」に着目し、今年度の研究主題を「主体的に学び続ける生徒の育成」とした。

昨年度は「私たち教員の願い」の実現に向けて、方法論については各教員に委ねることとし、ScTN 質問紙調査を取組の成果を検証する指標とすることにした。結果としては、昨年度実施した ScTN 質問紙調査では、「探究の学び」の項目は 3. 4（令和 7 年度 5 月実施、5 段階）から 3. 2（令和 8 年度 2 月実施）と低下した。その要因としては、方法論を各教員に委ねたことで、

どのように授業改善を図ればよいのか共通認識をつくるまでに時間がかかったことが考えられる。一方で、授業時数の3分の1程度「探究型の学び（探究的な学びの学習過程を「テーマ」「問い」「方法」「発表」の四つのステップに分け、それぞれのステップを各教科の単元の特性に応じて生徒に委ねる）」の方法論で授業を実施した教科では、全教科の数値を上回っており、「私たち教員の願い」の実現に向けて、有効な方法論であることが示唆された。

そこで、今年度は、「探究型の学び」を用いた単元の開発（授業デザイン）をとおして、主体的に学び続ける生徒の育成を目指す。

また、本校は、小中高連携を推進するにあたって瀬戸田地区小中高連携教育推進協議会を立ち上げることで、小中高及び、地域との連携を深めてきた。昨年度は、総合的な学習の時間を「ふるさと学習」「体験学習」の視点で構成することで授業改善を図った。昨年度実施した生徒アンケートにおいて、総合的な学習の時間の「ふるさと学習」「体験学習」の学びが有意義だと捉えている生徒が8割以上となっている。今年度もユネスコスクール加盟校として、引き続き総合的な学習の時間の充実を図るとともに、「探究型の学び」を用いた単元の開発を行うことでさらに主体性を引き出したい。

（３）研究のねらい

「探究型の学び」を用いた単元の開発（授業デザイン）を行うことで主体的な学びの実現を図る。

（４）研究仮説

「探究型の学び」を用いた単元の開発（授業デザイン）を行えば、生徒の意欲を引き出し、主体的な学びを実現することができるだろう。

（５）研究内容（研究の方向）

① 地域連携

【地域の人・もの・情報等の活用】

地域（生口・高根島）を中心とした体験学習を通して地域とともにある地域に開かれ信頼される学校づくり

ア 「総合的な学習の時間」の取組の質の向上

イ 地域行事・ボランティア活動への参加

② 小中高連携

【総合的な学習の時間】

ア 系統性を意識した各学年のプロジェクトの実施

イ 合同公開研究会等の開催

ウ ユネスコスクールの取組

③ 授業づくり

【主体的な学びの実現】

- ア ICT 機器の活用
- イ 1 人 1 単元開発
- ウ 先進校視察

(6) 検証の指標

- ①ーア 総合担当者会議・学年会議の実施
- ①ーイ 参加人数の把握
- ②ーア 総合担当者会議・学年会議の実施
- ②ーイ 小中高合同公開研究会の開催
- ②ーウ 大学連携による指導・助言
- ③ーア 校内研修・校内授業研究会の開催
- ③ーイ 校内授業研究会の開催
- ③ーウ 先進校視察

(7) 到達目標

- ①ーア 総合的な学習の時間の全体計画・単元計画の作成
- ①ーイ 年 1 回以上参加
- ②ーア 1 年は図書館プロジェクト、2 年は国際理解、3 年生は動画作成
- ②ーイ 11 月 6 日（金）に瀬戸田小学校で開催
- ②ーウ 1 年は図書館プロジェクト、2 年は国際理解、3 年生は動画作成
- ②ーア 校内研修を実施
- ③ーア 1 人 1 回授業公開
- ③ーイ 1 人 1 回授業公開
- ③ーイ ScTN 質問紙調査「探究の学び」の項目の評価 4 以上
- ③ーウ 主体的な学びの実現に向けた取組の先進校等を 2 校以上視察
また、5 名以上が視察

4 指導・助言者

氏 名	所属・職名等	備 考
小原 友行	広島大学・名誉教授	本校学校運営協議会委員
担当指導主事	尾道市教育委員会	派遣申請依頼予定

5 研究計画

月	日	研 究 内 容	講 師
4 月		瀬戸田地区小中高連携教育推進協議会事務局会 (組織づくりと方向性の確認) 全体研修会 (研究テーマの設定および年間計画の作成) 令和8年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る研究推進実施計画書等提出 総合的な学習の時間担当学会議	
5 月		ScTN 質問紙調査アドバンス版実施 校内研修 (本校の教育研究の目標について) 校内授業研究会 (坂本教諭) 総合的な学習の時間学年会議	広島大学 小原友行名誉教授 尾道市教育委員会指導主事
6 月		校内研修 (「探究型の学び」の方法論について) 校内授業研究会 (梶谷教諭)	
7 月		校内授業研究会 (加藤教諭) 先進校視察 (福山市立常石ともに学園)	東部教育事務所指導主事
8 月		小中高合同研修会 (公開研究会に向けて) 校内研修 (ICT の活用・特別の教科道徳・先進校視察報告について)	
9 月		校内授業研究会 (井上教諭) 校内授業研究会 (藤井教諭) 校内授業研究会 (椿山教諭)	
10 月		校内授業研究会 (川原教諭)	
11 月		小中高合同公開研究会 (原田教諭)	広島大学 小原友行名誉教授 広島県教育委員会指導主事 東部教育事務所指導主事 尾道市教育委員会指導主事
12 月		先進校視察 (東広島市立西条小学校)	
1 月		校内授業研究会 (山本教諭) 校内授業研究会 (今重教諭) 校内授業研究会 (雨野教諭)	
2 月		校内授業研究会 (植木教諭) ScTN 質問紙調査アドバンス版実施 瀬戸田地区小中高連携教育推進協議会事務局会 (成果と課題)	広島大学 小原友行名誉教授 尾道市教育委員会指導主事
3 月		総合的な学習の時間の成果報告会 全体研修会 (研究のまとめと次年度の方向性)	

別紙様式 1

令和 8 年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進予算計画書

尾道市立瀬戸田中学校 校長 佐野 元章

費 目		金 額	明 細
節	細 節		
<u>報 償 費</u>	講師報償費	① 5 1 , 7 5 0 円	①広島大学 小原 友行 名誉教授 (5 月、1 1 月、2 月) 5 , 7 5 0 円×3 時間×3 回
	報償費小計	5 1 , 7 5 0 円	
<u>旅 費</u>	講師旅費	① 1 6 , 4 4 0 円	①広島大学 小原 友行 教授 (5 月、1 1 月) 広島～生口 8 , 2 2 0 円×2 回 (2 月の旅費は学校から)
	視察旅費	① 1 , 8 1 0 円	①福山市立常石ともに学園 (予定)1 , 5 4 0 円×3 名=4 , 6 2 0 円 (- 2 , 8 1 0 円は学校から支出)
	旅費小計	1 8 , 2 5 0 円	
合 計		7 0 , 0 0 0 円	

※報償費、旅費合わせて7 万円以内の予算内で計上してください。